

令和4年度 横浜市幼保小連携推進地区事業
瀬谷区 瀬谷さくら地区 活動報告書

関東幼稚園

横浜市立 瀬谷さくら小学校

【推進テーマ】

「子どもの育ちと学びをつなぐ幼保小の交流と連携」

～アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの充実をめざして～

〈推進テーマ設定の理由〉

子どもたちにとって、小学校入学は、大きな節目のできごとである。期待をもつとともに、大きな不安を抱えている子どもたちも多い。子どもたちがのびのびと楽しく学んでいくために、また、安心して学校生活を送ることができるようにするために、園ではアプローチカリキュラム、小学校ではスタートカリキュラムを実施している。それぞれの取り組みをお互いがより詳しく知ること、見直しや改善を行い、子どもたちのスムーズな接続と安心につなげたいと考えた。



瀬谷さくら地区の特徴

〈幼保小の連携〉

○瀬谷さくら小学校には、関東幼稚園、石川幼稚園、文化保育園をはじめ、およそ10園から子どもたちが入学してくる。



〈地域に見守られ育まれる学校〉

○学援隊の方々が、登下校、学習サポートなどでたくさん関りを持ち、子どもたちも「自分たちを応援してくれている地域の方」と親しみを持ち、交流を深めている。



1年目

お互いを知ろう つながろう

○職員連携

- ・年間計画を立て、子どもの学びを共有する。
- ・情報交換・研修会・保育参観・授業参観
- ・アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの見直し

○子どもたちの交流

- ・1年生と園児の活動(学校紹介・公園での交流)



【活動の経過と今後の予定】

事業名	日時	内容
第1回推進委員会	4月14日(木)	・顔合わせ、自己紹介 ・日程調整
読み聞かせ	4月27日(水)	・幼稚園職員による1年生 児童への読み聞かせ
交流会①	5月下旬	・幼稚園児が2年生とまち で春探しをする
保育参観	6月24日(金)	・小学校の職員が体操教室 を参観
授業参観	6月28日(火)	・幼稚園の職員が授業を 参観
幼保小連携研修	7月21日(木)	・子ども青少年局の研修 に参加
幼保小連携研修	7月22日(金)	・子ども青少年局の研修 に参加
合同研修会 第2回推進委員会	7月下旬	・職員実技研修 ・研修会終了後、推進委 員会で交流計画作成
保育参観	8月下旬	・小学校の職員が1日保 育体験

事業名	日時	内容
幼稚園運動会	10月1日 (土)	・小学校の職員が幼稚園の運動会に 参加
幼保小連携研修	10月26日 (水)	・子ども青少年局の研修に参加
小学校運動会	10月29日 (土)	・幼稚園の職員が小学校の運動会に 参加
交流会②	11月中旬	・幼稚園児が5年生と小学校探検を する
生活発表会	12月3日 (土)	・幼稚園の生活発表会に小学校の職員 が参加
授業研究会	12月中旬	・幼稚園の職員が小学校に授業研究会 に参加
合同防災訓練	1月10日 (火)	・小中合同防災訓練に幼稚園児が 参加
交流会③	1月下旬	・幼稚園児と1年生が近隣の公園で 遊ぶ
区教育交流事業報 告会	2月上旬	・区教育交流事業報告会で報告
幼保小連携研修	3月13日 (月)	・子ども青少年局の研修に参加
第3回推進委員会	3月中旬	・年間の振り返り 次年度の計



【瀬谷さくら小学校スタートカリキュラム】

- ①子どもが学校生活に対して安心感をもつことができるようにすること。
- ②この時期の発達段階をふまえ、生活の中の興味・関心を核とした活動や体験を中心とした学習を取り入れることによって、幼児教育との滑らかな接続を図ること。
生活科を中核とした合科的・関連的な学習を構成していくこと。
- ③新しい集団の中での人間関係を徐々に築いていけるようにすること。
- ④新しい集団のルールを受け入れ、その中で自己発揮できるようにすること



【関東幼稚園アプローチカリキュラム】

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 健康な心と体 ○自立心 ○協同性 ○道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり ○思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い ○豊かな感性と表現

- | | |
|---|---|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・散歩・遠足・芋ほり・防災教室・公園のごみ拾い・いちご狩り ・季節の遊び(虫取り 秋遊び 水遊び等) ・野菜の栽培(枝豆、とうもろこし、トマト、きゅうり) ・花の栽培(ヒマワリ、チューリップ、ヒヤシンス) |
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・バレーン・運動会・劇あそび、わらべうた・卒園遠足 ・リズム遊び・ドッジボール ・集団遊び(水おに、ふえおに、リレーなど)・縄跳び ・季節の行事(お正月あそび・節分・夏祭り・ひなまつり他) ・卒園式 |
| C | <ul style="list-style-type: none"> ・運動会・劇あそび・卒園遠足・年下児クラスの手伝い・縄跳び ・季節の行事(お正月あそび・節分・ひなまつり他)・卒園文集作り・卒園式 ・当番活動(人数報告、給食配膳、水やりなど)・ハンカチ、上履きの使用・洗濯・掃除(ほうき、雑巾がけ)・小学校訪問 ・タイムスケジュールの表示 |

	アプローチカリキュラムの活動の柱	アプローチカリキュラムのねらい
A	学びの芽を大切に活動の充実	・知的好奇心を育み、自ら学ぶことができますようにします。
B	協同的な遊びや体験の充実	・人とのつながりを実感し、友達とともに目標を達成することができますようにします。
C	自立心を高め新しい生活をつくり、安心して就学を迎えられる活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・成長を実感し、自信をもって新しい生活をつくることができますようにします。 ・小学校との交流を通して、安心して就学することができますようにします。

1年目の取り組み計画

○保育士・教員の交流と研修

- ・保育士・教職員同士が互いの環境や取り組みの様子を実際に見て知ることで、子どもの理解の向上と子に応じた支援について具体的に考えることができる。また互いの関係を深めることで連携がスムーズ活弾力的に行えることをねらう。



4月
保育士による絵本の
読み聞かせ



10月
教職員による幼稚園
の運動会参加

○園児と児童の交流活動を通しての実態把握

〈動画を通しての交流〉

幼稚園の時に不安だったことを思い出して、「心配ないよ!」と応援メッセージを送りました!

小学校から



おなかすいたな



幼稚園から

読み聞かせや、手遊びの動画とともに、遊びのお誘いのメッセージももらいました！



手あそびをしましょう



「ともだちや」



こんどいっしょにあそぼうね

1月
第3公園にて交流



* 諸々の状況が重なり、今年度は1月に1回のみとなりましたが、次年度は春から交流を温めたいものです。

〈研修〉

横浜市こども青少年局・横浜市教育委員会事務局 主催

「やりたいことを見つけ、未来を切り拓いていく力をともに育む

～幼保小の保育士・教諭で、遊びや活動を通した子どもの育ちを語り合う～」

第2分科会「身近な環境に好奇心や探求心をもって関わり、生活を豊かにしていく力を育てる」

(認定こども園A幼稚園)

自分たちで育てた野菜から、カレーを作るというめあてに向かって、活発な意見交流をしていた姿が印象に残った。

うまくいくか否かについて、大人の見解は挟まず、計画したものをすべて実施し、振り返りや次への課題につなげる大胆な手法に驚いたが、子どもたちが何度も繰り返し挑戦する姿から、生活科や総合的な学習への素地を十分に育ててもらっていることがわかった。

(B保育園)

食育を核として、触覚、味覚、知覚に訴えかけている点や、体験をもとに子どもたちから自然発生的にあふれ出る言葉を拾いながら言葉の習得を目指している点が、小学校生活でも有効な手立てとして活用できそうだと話題に上った。

(C小学校)

「知らせたいな 見せたいな」の学習の中で、作文を表現する際に、相手意識、目的意識をもって語彙を増やしていくことの重要性を再認識した。

【成果と課題】

〈成果〉



〈職員の連携〉

- 園と学校の職員同士で、年間を通して子どもたちの人間関係などについて話をする機会がもてたことで、よりよい学級運営に生かすことができた。
- 園の育ちを伺いながら、授業内容や、入学説明会の内容を検討できた。

〈子どもたちの交流〉

- 動画交流では、お互いを意識した内容を相談したり、準備したりする中で、年長者としての自覚が芽生えていった。
- 公園での交流は、1年生の表情からも、とても充実した内容となったことが伺える。

〈課題〉



〈職員の連携〉

- お互いのアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムについての理解が足りておらず、練り上げがまだ不十分である。
- 顔の見える関係になれるように、今後も継続して交流を深めるようにしていく必要がある。

〈子どもたちの交流〉

- 実際の交流が少なく、意識づけが高まったとは言えない。次年度は、春先からの継続的な交流を進めていきたい。